



◆ 議案を読む会

11月24日(日)9:30~12:00  
@コミュニティスペース くるり

◆ 12月議会予定

12月2日(月)~12月16日(月)  
傍聴しよう！インターネット配信もあります。

◆ まちかどカフェ&12月議会報告会

岩崎さゆり市議から市政の報告を  
1月25日(土)14:00~15:00  
@市民交流センターおあしす ミーティングルーム4

◆ 放射能測定

今年も9カ所の測定をします。  
11月11日(月)13:30 集合  
@吉川市役所なまざま monument前

イベント案内

上映会「希望の給食」

1月25日(土) 15:00~17:45  
@市民交流センターおあしす ミーティングルーム4  
参加費:大人 200 円、子ども 無料

● 皆様からのご意見・ご感想

ご入会希望等お問合せはこちら！  
MAIL: [yoshikawa.shimin.net@gmail.com](mailto:yoshikawa.shimin.net@gmail.com)  
FAX : 048-983-1835



ポスティングボランティア募集中♪  
ご寄付のご協力もお待ちしてます！

ゆうちょ銀行 038 普通 7744921

岩崎さゆりの活動記録



岩崎さゆりの連絡先  
070-1187-3828  
sayur.ing.iwasaki@gmail.com



よしかわ市民ネットワークは  
岩崎さゆりを市議会に送っています

よしかわ市民ネットワーク

3つのルール

- ① 任期は最長 3 期12年で交代
- ② 選挙はカンパとボランティア
- ③ 議員報酬はみんなの活動費



今こそ「つながりの経済」をつくろう

私たち市民ネットや生活クラブ生協他でつくる運動グループのフォーラムで、ジャーナリスト工藤律子さんからスペインでのルポを基にお話を伺いました。

新たな経済の枠組

単に利潤を追求するのではなく、人と環境を中心に据えた「社会的連帯経済(SSE\*)」。自分たちで共同して出資・運営・分配する平等で尊厳のある労働を大切にします。労働者協同組合やNPO、フェアトレード、有機農業などはその担い手です。今のままでは不安定な雇用が増え続け、格差が広がり、分断や対立が深まってくばかり。それとは違う経済！響きは硬いけれど、未来を明るくする新しい経済だと思いました。



お金抜きで、時間をベースにした助け合いや学び合いを行う「時間銀行」も面白い取り組みです。時間や空間を共有することで、信頼に基づくつながりが生まれ、豊かなコミュニティが出来ます。そんな中で、自分たちの好きな事や出来ることを活かしながら働くことが出来れば、大金は得られなくても、きっと心豊かに生きられます。

夢のある自分らしい働き方

労働者協同組合(労協)の例として、①自転車のレンタルや修理・ツアー企画をしながらバル(食堂やバーと一緒にあったような飲食店)をやっているお店。②遺跡の出土品のレプリカを作る陶芸教室。③バイク宅配便の運営をデジタル技術で支援する会社があります。そして、協同組合どうしが緩く繋がり、政府にも提言していきます。政府は約18億ユーロ/約2900億円(2021年)の予算で、そうした仕組みづくりを技術的・資金的に援助しています。EU全体では8069億ユーロ/約102兆円にもなります。SSEによる生産額はGDPの10分の1にあたります。また、労協が運営する学校も600校もあり、そこでは児童が「子ども協同組合」を作りその仕組みを学びます。

日本でも「労働者協同組合法」が2022年に施行されています。こうした働き方が広まれば、もっと生きやすい社会になります。現状を諦めないで、前へ進めましょう！(MI) \*Social and Solidarity Economy

よしかわ市民ネットワーク



元気に自立した生活を豊かに送るための

骨粗しょう症予防について

9月議会 岩崎さゆり 一般質問



市議会議員 岩崎さゆり

なぜ、ないの？  
骨粗しょう症検診

一女性市民から「吉川市では骨粗しょう症の検診がありません。他の自治体では実施しているところが多くあります。閉経後の50代頃から市が検診を勧め、カルシウムの摂取や運動など予防に努めれば、高齢になってからもより元気に豊かな老後をごせ、介護予防にもなると思っています」と声が届きました。その声をきっかけに聞き取りをすると“自身の骨密度に対する不安の声”が予想を超えて多く寄せられました。吉川市を含む5市1町で、骨粗しょう症検診を実施していないのは吉川市のみ。三郷市は40歳から5歳刻みで受診でき無料。松伏町は40歳以上の女性を対象に1年に2日間(定員は約 200 人)費用は200円で実施しています。

市の検診に対する考えは？

今まで骨粗しょう症検診の要望はあったか、また、検診を検討したことはあるのか質問しました。市は、「検査の問合せや要望は数件あった。H19年(2007年)まで検査を行っていたが、医療機関における任意の検査実施状況を鑑み一定の役割を終えたと判断し、終了した経緯がある」との答弁でした。

男性にとっても無縁でない骨粗しょう症

骨密度は、女性は40代後半から急激に、男性は50代頃から緩やかに減っていきます。推計1280万人いる骨粗しょう症患者のうち、男性は全体の4分の1を占めます。骨折から寝たきりというケースが多

く、認知症のリスクも高まります。骨粗しょう症予防に取り組むことが社会保障費削減につながるのではないのでしょうか。

骨粗しょう症検診の実施を！

市民の要望を反映した上で、骨粗しょう症検診の実施の検討を要望したところ、市は「他市の実施例は参考にすが、現段階で市の実施は考えていない」という答弁でした。

傍聴した市民から「これからもこの要望を粘り強く訴え続けてほしい」と声が届きました。



強い香りで困っている人もいます

「香害(こうがい)」とは、合成洗剤や柔軟剤などに含まれる合成香料(化学物質)によって、様々な健康被害が誘発されることをいいます。近年では、この香害が原因で化学物質過敏症を発症する人もいます。まだ治療法が確立されておらず、原因となる化学物質を避けることが有効な対処法とされています。香りの害については認知度も低く、〈香りのエチケット〉のポスター掲示だけでなく、更なる周知・啓発を求めました。

市の答弁は「従来からHPで香害の周知・啓発を行っている」。更に今回「全ての小中学校の10月の『保健だより』でも掲載を予定している」というもので、一歩前進しました。

児童・生徒の健康と学びを守る為の環境作りとして、「香害に関するアンケート」の協力依頼を求めましたが、「期待に沿うことができない」とのことでした。今後も周知・啓発を求めていきます。

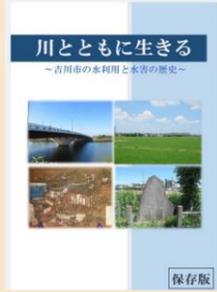


# さゆりの毎日コツコツと

## 石碑に刻まれた教訓「協同」について

県道川藤野田線の「川藤」交差点から歩道に沿って西へ160メートルのところにある自然災害伝承碑※「協同碑」。明治23年の水害時に、旭村と松伏村の人々が協同で防水にあたり、その美事を永く伝えたいと、明治27年(1894年)12月に建てた石碑です。

※自然災害伝承碑：過去に発生した津波、洪水、火災災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄(災害の様相や被害状況等)が記載されている石碑やモニュメントのこと



市作成の資料(2024年)



川藤地内 自然災害伝承碑「協同碑」

川藤の木売落伏越から鍋小路まで数百メートル、旭地区の南端に土俵を積み、南から迫ってくる洪水の北上を防ぎました。土俵を5段に重ね上げ、住民たちが力を尽くして昼夜対策にあたる日々が12日間続き、ようやく水が引いて防衛したと石碑に記されています。

かけがえのない財産である「田畑」を守るために、二つの村が助け合い、懸命に災害に立ち向かう姿が目に見え、思わず涙しました。

この度、石碑の解説板の設置と石碑脇の歩道の整備が行われました。現地で先人の想いに触れていただきたいと思います。



田園



## よしかわ市民ネットワーク会員 m 吉川で農と出会う ③

### 農の豊かさ

夏も盛りごろ、田んぼのはたを通ると、ほのかに良い匂いがして、稲の花が咲いたことに気づく。しゃがんで眺めると、こまかい白い花が小さく風に揺れている。この季節は雷(かみなり)も多い。雷を稲妻(いなづま)とも呼ぶが、元々は「稲の夫」を指している(昔は「夫」という字を「つま」と読んだ)。稲は花をつけ稲妻と結婚し、豊かに大粒の米を実らせると古代の人たちは考えたようだ。今日では、雷の放電により空気中の窒素が窒素化合物になって、雨に溶けて土に降り注ぎ、稲の育ちを促すことが知られている。

土に生きた古代の人たちは、科学的な観察の眼を持ち、美しく雄大な言葉(いなづま)を紡いだ。農には根源的な豊かさがあると思う。

吉川に暮らす私たちは田んぼの恩恵を受けている。田園



風景はやすらぎと幸福感をもたらしてくれる。しかし田んぼの担い手は、60歳以上が約7割を占め「子どもには農業を継がせたくない」という親世代も多いという。稲作農家の方の話を聞いて、稲作は仕事として成り立たないほど、収益が少ないことを改めて知った。「それなのにどうして米作りを続けるのですか」と伺うと「土地があるから」と答えがあった。稲作は日本人の主食産業で、公共性も高いのに、農家のガマンの上に成り立っている。

一方、国連は2019年から2028年までを「家族農業の10年」と定め、欧米を中心に小規模家族農業が見直されている。効率重視の視点を転換し、小さなエネルギーでの生産や、地産地消、地域経済のしくみが評価されている。SDGsの目標達成や気候危機対策においても重要な役割を果たすことが認識され、小規模家族農業の良さに光が充てられている。

私たちは何をしよう。農業者と交流して農を知る、地域経済を活性化させる、国や行政に働きかけるなど、幾つもあると思う。

農には人を幸福にする豊かさがあるのだから。(m)

## 市議会を傍聴して

9月の吉川市議会が2日に始まり24日で閉会しました。最後の3日間、市議会議員(以下市議)による一般質問がありました。一般質問とは市政の課題について市長及び市担当課に質問することです。

私は岩崎さゆり市議の一般質問を聞きに、2日目の9月20日傍聴に行きました。議場入口で記名し、渡された番号札を首から下げると一般質問書を手渡されました。傍聴室に入ると、三列にゆったりと並んだ傍聴席があり、私は端っこが好きなので、一番奥の席に座りました。正面に議長、右側に市長、副市長等。左側には教育長始め市担当課の部長クラスがズラリと並んでいるのが見えました。傍聴席からは市議全員の背中しか見えませんが、各所にスクリーンが設置され表情がはっきり分かります。居眠りなどしていたらすぐに傍聴席からも

見えてしまいます。

質問の持ち時間は、再質問を含め一人40分。「市民から寄せられた多くの要望からテーマを選び、様々な資料を調べ、私たちの代わりに市に質問し、課題解決に向け頑張ってくれているのだな」ということが良く分かりました。

「議会傍聴?一度も行ったことないし...ハードル高いなあ」と思っていたら、私も以前はそんな気持ちでしたが、自分の選んだ市議が市民の声に耳を傾け、市の姿勢や取り組みを問うてくれている姿を、自分の目と耳で確かめてみてはいかがでしょうか。

‘投票して終わり’ではなく‘その先も見続けて行く’。議会傍聴はその第一歩になるかもしれません。(YT)

## 「希望の給食」 上映会のお知らせ



1月25日(土) 15:00~16:45  
市民交流センターおあしす ミーティングルーム4  
参加費:大人 200 円、子ども 無料

子どもたちが学校で毎日のように食べる給食。使われる食材はどんなもの? 給食をめぐる仕組みは、地域のあり方やまちづくりにも大きく関わってきます。進んだ取り組みを行う自治体や海外の例を知って、これからの給食についてみんなで考えていきましょう。(上映時間42分、上映後懇談会)



## よしかわ市発達を支える会 ビリーブ

私たちはこの吉川の地域において、発達障がい診断を受けている子や、診断は受けていないけれど気がかりな面をもつ子どもの家族を支える会です。どんな困難なことがあったとしても、子どもの成長を信じていくと願って、「ビリーブ」と名づけました。2008年1月から、毎月第3木曜日、おあしすまたは美南公民館で開催しています。

たとえ障がいがあっても、ありのままの子どもを受けとめて、分け隔てることなく、共にすべての子どもたちが学び、遊び、集団生活を送れることを願います。そのためにこの吉川市で活動し、人々に理解されて、支援や情報を得られることを目指しています。

この会では、互いに寄り添いながら、悩みを分かちあい、励ましあうことのできる仲間を作ることを大切にしています。個人的な話になるため、内容はこの集まり以外では一切話さない約束ですので、どなたでも安心してご参加ください。また、地域のあらゆる立場の方とつながっておりますが、団体として、特定の政党・政治団体を支持していません。

なんでも自由に、一人一人が話せる居心地の良い場所になることを心がけています。お待ちしております。

小野名美

